

編集後記

昨年暮の3ヶ月予報では、今冬は平年より高めの気温で降雪量も少ないと言われていましたが、その後年末から強い寒波が来て日本海側を中心に大雪となり九州や四国の各地でも記録的な積雪を記録しています。この大寒波は日本だけではなく北半球全域を襲っており、北米やアジア、ヨーロッパの各地で数10年ぶりという低温を記録しているようです。東京では2年ぶりに氷点下の気温を観測したという報道で、初めてこの2年間は零度以下に下がらなかったことに気が付かされました。

今回の寒波は、北極振動という現象により北極圏からの寒気の吹き出しが強まったためという分析が気象庁から発表されています。北極振動は、よく知られているエルニーニョなどと同様に気象に影響を与える自然現象で、短い複雑な周期で変動する北極圏の気圧にともなって北半球が寒暖を繰り返すものといわれています。最近温暖モードから冷却モードに切替わり今後20年～30年涼しい気候が続くと予想している学者もいるようです。

ところが、大寒波が続いていたかと思うと突然3月下旬～5月上旬並というポカポカ陽気が3日間程度続き、北海道では観測史上最高の気温

を記録したところもあるようです。また、冬季オリンピック開催まで1ヶ月を切ったバンクーバーでは暖かい日が続く、競技会場で雪が不足してしまったため、雪を運び込んでコースの整備に必死に取り組んでいる様子が伝えられていました。気象現象も様々な自然現象にCO₂の増加などの人為的な要素が加わって非常に複雑な様相を見せているのかもしれませんが。

今月号は「地盤改良特集」です。地震大国の日本で安全に構造物を建設するためには基礎となる地盤の信頼性が重要です。ところが日本の都市の多くは軟弱地盤の上に発達しているといわれ、構造物の安全を確保するためには地盤改良は大変重要な技術といえます。

私にとって「地盤改良」は専門外ですが、これまで多少の知識は持っているつもりでした。ところが、今回の企画を行うまでは地盤改良工法にこれほど多くの種類があるとは思っておりませんでした。地盤は場所により千差万別であり、建造物もまた様々な形状や目的があります。直接眼で見たり触れたりすることのできない地中で必要な強度を確実に得るためには、状況に応じた多種多様な高度な技術が必要なのだと思います。

最後になりますが、ご多忙中にもかかわらず御執筆頂いた執筆者の方々には心から厚く御礼申し上げます。
(藤永・星野)

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井新一郎	今岡 亮司
上東 公民	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
佐野 正道	新開 節治
関 克己	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
橋元 和男	本田 宜史
渡邊 和夫	

編集委員長

岡崎 治義 (社)日本建設機械化協会

編集委員長代行

太田 宏 三井造船(株)

編集委員

森川 博邦	国土交通省
山田 淳	農林水産省
松岡 賢作	(独)鉄道・運輸機構
圓尾 篤広	(株)高速道路総合技術研究所
石戸谷 淳	首都高速道路(株)
高津 知司	本州四国連絡高速道路(株)
平子 啓二	(独)水資源機構
松本 敏雄	鹿島建設(株)
和田 一知	(株)KCM
安川 良博	(株)熊谷組
渥美 豊	コベルコ建機(株)
富樫 良一	コマツ
藤永友三郎	清水建設(株)
赤神 元英	日本国土開発(株)
山本 茂太	キャタピラー・ジャパン(株)
星野 春夫	(株)竹中工務店
泉 信也	東亜建設工業(株)
斉藤 徹	(株)NIPPO
高木 幸雄	日本道路(株)
堀田 正典	日立建機(株)
岡本 直樹	山崎建設(株)
中村 優一	(株)奥村組
石倉 武久	住友建機(株)
京免 継彦	佐藤工業(株)
久留島匡繕	五洋建設(株)
藤島 崇	施工技術総合研究所

3月号「情報化施工特集」予告

- ・情報化施工の本格普及に向けた取り組み
- ・情報化施工を利用した監督・検査と取得データの利活用手法の研究
- ・建設ITCの導入への取り組み
- ・土木研究所における情報化施工関連プロジェクトの紹介
- ・情報化施工の本格普及に向けた環境整備 レンタル機械の配備と今後の動向
- ・情報化施工の本格普及に向けた環境整備 人材育成
- ・ドイツにおけるITCを利用した締固め管理技術
- ・米国における舗装の締固め管理技術の動向とICT技術の活用
- ・大規模工事における情報化施工の導入事例～京極発電所上部調整池工事～
- ・中・小規模の建設工事における情報化施工の取り組み
- ・米国の情報化施工の現状・事例紹介
- ・中小規模現場における情報化施工導入成功の秘訣
- ・WEBを活用した情報統合システムのねらいと効果
- ・ボスボラス海峡横断鉄道トンネル建設工事と情報化施工～ボスボラス海峡の潮流予報システム～
- ・3次元GISとGPSを組み合わせた「汚染土壌掘削管理システム」

No.720「建設の施工企画」 2010年2月号

[定価] 1部840円(本体800円)
年間購読料9,000円

平成22年2月20日印刷

平成22年2月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 辻 靖 三

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支部	〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8	電話 (011) 231-4428
東北支部	〒980-0802 仙台市青葉区二丁目16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支部	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1	電話 (025) 280-0128
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支部	〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支部	〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22	電話 (082) 221-6841
四国支部	〒760-0066 高松市福園町3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支部	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-8-26	電話 (092) 436-3322